

**成功のイメージ その3**

(1年生へ)

高校テニスには大きな全国大会が2つある。

一つはインターハイ。8月、毎年開催地を変えて行われ、団体戦では都道府県大会の優勝校が代表権を得る。総ての競技が1カ所に集まる高校スポーツの祭典である。

もう一つは選抜大会（全国選抜高校テニス大会）。毎年3月20日過ぎに福岡市で開催され、団体戦が行われる。2回戦に勝ち進んだチームのエースが出場する個人戦もある。男女それぞれ50校が出場し、開会式などのセレモニーはとても華やかだけれど、この大会はインターハイを目標にして力をつけるための“通過点の大会”として、純然たる競技会の様相を呈している。また、大会に先立って、福岡市周辺のコートでは練習試合が盛んに開かれる。参加校だけでなく、九州大会で涙を呑んだ地元の学校に声をかけると、北海道からやってくるチームを大歓迎し、何校も集めて練習試合をセットしてくれたりする。大会本番は、強豪と当たれば1試合で終わってしまうけれど、10日にも及ぶ遠征のなかで数多くの練習試合を行い、トップレベルの試合をたくさん観戦することは、チームにとってどれほど大きな財産になるかしのれない。

選抜大会の代表選考の方法はインターハイとはずいぶん違っている。全国が関東・近畿・九州など9つのブロックに分けられ、その大会に各都府県から2つの代表校が出場して、全国大会への出場権が争われるのだ。ブロックごとの出場校数は毎年変わり、学校数が多く“強度”が評価されている関東ブロックからは、毎年10校以上が出場権を得ている。各都府県大会の上位2校が、関東大会や近畿大会などブロック大会に集まって代表を決めるため、2校出場する県もあれば、1校も出場できない県もあるのだ。一方、北海道は、都道府県大会としての全道大会が、北海道ブロックの代表を決める北海道大会を兼ねている。そのため、全道大会の上位2校がそのまま代表権を得ることになる。

選抜大会には高校野球の“21世紀枠”に似た制度がある。“選考委員会特別枠”という制度で、男女それぞれ4校が選ばれる。北海道から推薦されるのは秋の全道大会のベスト4。1位2位は出場権を得ているから、3位と4位が選考の対象になる。その上で、選考委員会が「この制度に相応しいチーム」と評価すれば出場権を得ることになるのだ。

さて、成功のイメージを作ろう。確かに高いハードルではあるが、秋季全道ベスト4のイメージは、目標として掲げるには理想的な困難さを備えている。では、二つ目の「この制度に相応しいチーム」として評価されるイメージはどうだろう。例えば、<sup>はつらつ</sup>滲刺としたプレー、コート内外での礼儀正しく好感の持てる態度……1球1球を追いかける切実さ、諦めないひたむきさ、ボールへの執着、理にかなった懸命のフットワーク、声出し、挨拶……ああ、<sup>いかに</sup>如何せん、成功のイメージは一向にリアリティのある像を結ぼうとしない。だって、仮に俺が選考委員だとしたって、今のこのチームを選びはしないから。